

ベトナムに行ってきました



外国人技能実習生が学ぶ現場を視察



近所にあるコンビニの店員は日本人ですか？会社に外国人はいいますか？キツイ・危険・汚い・安い・休みが取りにくい仕事を敬遠すると、誰がその仕事をしてくれるのでしょうか？

介護・建設・飲食・農業等々の働き手を確保するために、外国人技能実習制度が拡充されています。

当社の顧客がベトナム人の技能実習生を年末から採用すると聞き、現地の事情を知らずして人手不足に苦しむ中小企業経営者の相談相手になることはできない！と考え、ASP O（アジア土業共同体）主催のベトナム視察ツアーに二人で参加しました。日本語学校三



押し寄せるバイクの波～

校、国立大学、私立大学、日経企業二社、ジェトロ、日系企業社長交流会等々、寝る間も惜しむような弾丸ツアーで得たものは大きく、現地で現物と現実を見るところに参加目的を達成できました。ベトナムはエネルギーに満ち溢れ「お金を稼ごうぞ！」そんな若者のキラキラした目がとても印象的でした。

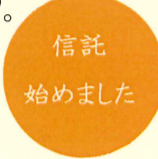
※コンビニの店員は技能実習生ではありません。

今後のヤマト会の開催予定

開催月日	意見交換の基となるお話
9月5日	銀行員の本質
10月1日	大人が学ぶこどものための経済の話
11月7日	(仮称) 令和を生き抜くクラウド必勝法
※11月9日	※パトン (想いと財産) の上手な引き継ぎ方
12月5日	(仮称) 円満な相続事業承継を見据えて
1月8日	年末公表の税制改正を経営に活かす
2月6日	(仮称) 崖っぷち (破産) からの生還

※智枝税理士の出身地である下関市で開催

相続・事業承継コンサルティングに不可欠な信託を
実務経験豊富な青山先生と村井先生が
講師を務める「信託」実践支援講座で
学んでいます。
早速、来月には信託を提案する予定です。



いよいよ
ラグビーワールドカップ
開幕!!
日本代表を応援しましょう

9/20	対 ロシア
9/28	対 アイルランド
10/5	対 サモア
10/13	対 スコットランド

税制活用ワンポイント

事業承継税制ってなに？

二〇一八年に休業業及び解散した企業の数は何と四万六千社強です。廃業等に至る大きな要因は経営者の高齢化と後継者不足が考えられ、今後十年間で六百五十万人の雇用と二十二兆円のGDPが失われるという記事もありました。

中小企業の事業承継は国家的な課題であり、円滑な承継を促すために「事業承継税制」が拡充されています。市場では売ることができず、譲れば会社の経営権を手放してしまうことになる中小企業の株式。その取得に税金を取られるのを猶予しようという制度で、二〇二三年三月までの都道府県知事の許可の取得と、二〇二七年十二月までの相続贈与が対象となっています。期限を決めて中小企業の事業承継を促進させたいと政府は考えているのです。

メリットは、株式の取得に係る税金につきその全額の納税が猶予されること。そして、その猶予が取り消される要件が大幅に緩和されたことです。デメリットは、所定の期限までに届出書の提出をしなかった場合などに、利子税を加えた税金を納付しなければならないことです。

事業承継税制を活用する可能性がある場合には、①後継者候補を役員にする②役員とパート社員のみで会社であれば一名を正社員に転換する③相続開始後五ヶ月以内に後継者を代表者にするをお勧めします。

ふらふらと
食べあるき

「旬味 やま修」
通勤路に気になるお店がありました。ビルの入り口に鰹のタタキの写真。「入ってみようか」「でも二階にあるし」「店の中の様子がわからないよね」「敷居が高そうじゃない」「止めよう」というチキンな会話を何度も繰り返していた私達。でもそんな自分達にサヨナラするべく、ある日意を決し、その門を叩いたのです。まずは、「鰹の薫焼きタタキ」を注文。カウンターの左手にあるガラス張りの薫焼きコーナーで焼かれた鰹をお塩と薬味でいただくのですが、初めて食べたときの感動は忘れられません。今まで食べてきた「鰹のタタキ」とは全くの別物。薫で焼くことにより驚くほど風味が増すのです。その後、トンゴロイワシや土佐赤牛など高知県産の食材を使ったお料理や高知の日本酒をモリモリごくごく。気になるお会計は、このクオリティでこのお値段：なんとという機会損失。いつも笑顔で接客される大将の人柄が随所に滲み出ているお店です。

住所 福岡市中央区薬院3-13-11
RAGAZZA 薬院2階
電話 092-526-17050
営業時間 17時30分～0時00分
定休日 日曜日
(お昼は予約制でおまかせランチのみです)

勝手にオススメしたい
この一冊

『教養としてのワイン』
著者 渡辺順子

出版社 ダイアモンド社
出版日 2018年9月19日
定価 1600円(＋税)

この本は、クリスティーヌのワイン部門で活躍した著者によるもので、ワインに関する知識もさることながら、オークションに出品されるビンテージワインに関する裏話が描かれています。出品前に状態をチェックするためにスタッフで飲んだ一九三四年産の「ロマネ・コンティ」のくだりはワイン好きにはたまりません。「ワインを嗜むことで、地理、歴史、言語、化学、文化、宗教、芸術、経済、投資など豊かな国際知識を得られる」とあり、一本のワインは知識の宝庫なのだと言及されました。かの詩人ゲーテはアルザスワインに傾倒し、「ワインのない食事は太陽の出ない一日」「つまらないワインを飲むには人生はあまりにも短すぎる」という名言を残し、自らオリジナルワインも作っていたそうです。秋の夜長に目の前の一本のワインに思いを馳せてみてはいかがでしょう。

七月下旬、ベトナムのホーチミンに行ってきました。パクチャーなど香りの強い野菜が苦手な私は出発前からかなり憂鬱：でもその杞憂を吹き飛ばすかのような美味しい料理にありつけて、ひと安心。街はバイクでゴった返し、歩行者をなんとも思っていない。フォーに私の苦手なくさい野菜を山盛り入れて食べる。そんな姿にベトナムの底知れないパワーを感じ、己の軟弱さを知った旅でした…

編集後記
鈴木智枝